

「海の出前授業」派遣レポート

都道府県：岡山県

派遣先（学校名）：渚の交番 ひなせうみラボ

授業タイトル：みぢかな海の環境を考えよう

講師名：藤井賢彦（北海道大学）

派遣年月日：2022年5月22日

派遣者コメント

岡山県備前市日生海域では昔からマガキ養殖が盛んである。一方、高度成長期以降の人間活動の影響によるアマモ場の激減を経験し、現在、漁協も含め地域が一丸となってアマモ場の再生に取り組んでいる。派遣者は日本財団海洋酸性化適応プロジェクトの枠組みでマガキ養殖の海洋酸性化影響に関する研究を行っており、その研究対象地に日生海域が含まれることから、ご縁あって今回、日生町の頭島にある「渚の交番 ひなせうみラボ」で開催されたイベント「ひなせうみラボ親子体験」の講師として派遣して頂く機会を得た。

上記イベントには近隣地域から23名の参加があった。本イベントは海洋環境に関する座学に始まり、海ごみ回収、シーカヤック等、海との多様な触れ合いの場を提供するもので、派遣者は30分程度の座学を担当した。児童の年齢層が年少～6年生と幅広いと聞いていたので、聞き手の中心を誰にするかで少々悩んだが、なるべく幅広い内容を分かりやすく伝えるように努めた。具体的には、日本近海の生物の多様性と生産性が極めて高いこと、そして人間活動によって生物が影響を受けていること、その原因が多岐にわたること等を紹介した。参加者も主催者も海ごみに関する関心が高いようだったので、海洋プラスチックごみを含む海ごみの影響についても紹介した後、人間社会から排出される最大の廃棄物であるCO₂が主因となって引き起こされる地球温暖化・海洋酸性化影響に関しても、地域に特徴的なマガキやアマモに対する影響や役割と共に紹介した。

派遣者の本業は大学教員であり、普段は大学院生・大学生に話すことが多いので、児童にとって分かりやすい内容だったか心許なかったが、児童の皆さんには質問も沢山してもらい（元々海洋環境問題に関心の高いご家族が参加する傾向があるものの）、またイベント終了時に作成された報告ポスターでも分かりやすかった、面白かった等の感想を頂くことができ安堵した次第である。でも、授業をした私のほうが学ぶことが多かったような・・・。お話を聞いてくれた皆さん、またどこかでお会いしましょう！！

